

【八千代町】

校務DX計画

八千代町では校務DXを推進するため、学校での会議における資料を学習用端末で共有しペーパーレス化するなど様々な取り組みを進めている。しかし「次世代の校務DX」を実現するためには、依然として課題が尽きない状態である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な課題への取組を次のとおり定める。

【現状・課題】

（１）校務支援システムの利用制限

校務支援システムは教務、保健、学籍、成績管理など幅広い業務で利用している。八千代町役場にサーバ機器が設置されたオンプレミス型で運用しており、特定の執務室（校長室、職員室、保健室）でのみ使用可能としている。そのため、校務支援システムへの入力をする際は執務室へ戻る必要があり、自宅でのテレワーク等のロケーションフリー勤務の障害となっている。

（２）連絡ツールについて

保護者からの連絡手段として、児童生徒の欠席・遅刻等の連絡はマチコミメールを活用した受付をしている学校もあるが、依然として電話による受付をしている学校もある。欠席・遅刻等の情報は、校務支援システムへ手入力している状況であり教職員の負担となっている。

また、学校から保護者へのお便りやアンケートがある場合、マチコミメールにGoogleドライブ上のPDFデータやGoogleフォームで作成されたアンケートのリンクURLを張り付け送付している。ペーパーレス化の促進となっているが、文書の作成、

PDFデータのグーグルドライブへの共有、メールの作成、URLリンクの貼り付け、メール送信と余計な手間が多く教職員の負担となっている。

町内に設置された異なる学校の教職員同士の連絡手段についても、電話・メールを使用しており、より効率的な連絡ツールの導入が求められている。

(3) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXでのやり取りは災害発生等の緊急時を除き、基本的に廃止する方針としており、学校での認識が広まっているため使用はなくなっている。

押印については、出勤簿や会計処理に係わるもの等、一部の事務文書のみ必要としているが、およそ省略としている。

【取組方針】

現状と課題から八千代町では、下記について校務DX推進のため検討を進める。

(1) 校務系・学習系のネットワークの統合、校務支援システムのクラウド化

校務系・学習系のネットワークを統合し、インターネットへの接続を可能とすることでデータの連携が容易となり、さらに校務支援システムのクラウド化により執務室（校長室・職員室・保健室）以外の場所での業務も可能となるため、教職員の業務効率の向上が図れる。令和9年度から稼働予定の茨城県による校務支援システムの共同調達について検討する。

(2) 連絡ツールの導入

学校・保護者を結ぶ連絡ツールとして校務支援アプリを導入することにより、児童生徒の欠席・遅刻等の電話対応やマチコミメールを用いたお便り等を送る手間がなくなり、また校務支援システムへの手入力作業もなくなるため、教職員の業務負担の軽減

減となる。同時に、町内で異なる学校の教職員を結ぶ連絡ツールも導入し、電話・メールでのみの連絡手段である現状を改善することで教職員の業務効率の向上を図る。

(3) 押印の見直し

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。規則、制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。